

Generation Equality Forum メキシコ

参加報告書



2021年3月29日(月)~31日(水)

@オンライン開催

発行:公益財団法人日本 YWCA

〒273-0021 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11 東京 YWCA 会館 302 号室

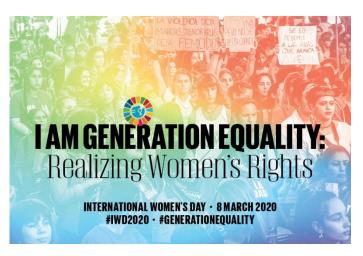
Tel: 03-3292-6121/ Fax: 03-3292-6122

Email office-japan@ywca.or.jp http://ywca.or.jp

1

Generation Equality Forum について

UN Women は、世界中の市民団体を中心に、メキシコ政府、フランス政府とともに、Generation Equality Forum (GEF: 平等を目指す全ての世代のためのフォーラム)を、3月29~31日でメキシコシティ、7月7日~10日でパリにて開催します。このフォーラムは、ジェンダー平等と女性のエンパワメントを目指す最も包括的で先進的な国際的枠組みである北京行動綱領と北京宣言の採択から25周年(北京+25)を記念して、ジェンダー平等



に向けた動きを加速されるために企画・実施されることになりました。その背景には、何十年もの間、ジェンダー平等を目指して国連女性の地位委員会(CSW)等の国際政治の場で議論がなされてきましたが、1990~2000 年代以降、深刻なバックラッシュ(揺り戻し)の影響を受けて、その歩みは進展がないばかりか後退しそうな状況に置かれています。北京行動綱領採択から 25 年目の機会に、ジェンダー平等に向けてなんとか一歩でも前に進みたいという思いで、GEF が実施されることになったのです。

2

Action Coalitions について

GEF ではこの機会に、これまでの進展を評価し、次の 6 つのテーマ別の Action Coalition(アクション・コアリション)を立ち上げました。アクション・コアリションとは、ジェンダー平等の実現のために行動を起こす連合体のことで、各国政府、女性団体、市民社会、民間部門、国連機関、国際機関や若者団体を含むさまざまなステークホルダーでリーダーシップが構成されています。

リーダーシップの構成団体の一覧はこちら: https://bit.ly/39SWDG5

- · ジェンダーに基づく暴力
- · 経済的正義と権利
- ・ 身体の自律性および性と生殖に関する健康と権利(SRHR)
- ・ 気候正義のためのフェミニスト的行動
- ジェンダー平等のための技術と革新
- ・ フェミニズム運動とリーダーシップ

この6つのテーマに加えて、女性・平和・安全保障と人道援助に関する協定も立ち上がりました。各アクション・コアリションでは、2026年までの5年間でジェンダー平等と全ての女性・少女のエンパワメントを実現するために必要な具体的な行動と資金援助が約束されます。いわば、2026年までのジェンダー平等を加速させるためのロードマップを作ることがフォーラムの目的となります。



2021 年 4 月 9 日現在の各アクション・コアリションのビジョンおよび具体的な行動の叩き台は、以下の通りです。 全文はこちら: https://bit.ly/31TPPn9

ジェンダーに基づく暴力

くビジョン>

- あらゆる多様な女性と少女に対するジェンダーに基づく暴力に対応するための具体的で新しい包括的な公約の作成と実施。
- 女性人権団体が、その専門性が認められ、十分なリソースを有していること。
- ジェンダーに基づく権力関係と社会 的規範の変革。



- ジェンダーに基づく暴力の予防と対応のためのすべての取り組みに、交差的で証拠に基づいたアプローチが一貫して組み込まれるようにすること。
- 法的枠組みが整備され、実施されていること。
- ジェンダーに基づく暴力のすべてのサバイバーが、包括的な支援サービスに安全にアクセスできること。
- 政治的意思と説明責任を構築するための、協力的で規模の大きなグローバルな行動。

<具体的な行動>

より多くの国家と地域のアクターが国際・リージョナルな条約を批准し、官民機関が、多様なあらゆる女性と

少女に対するジェンダーに基づく暴力を根絶するために、証拠に基づいた法律、政策、行動計画を強化、 実施、融資を行う。

- 人道的な環境にある人を含め、多様なあらゆる女性、少女、若い女性に対するジェンダーに基づく暴力の 蔓延を抑制するために、官民機関や女性の権利団体による証拠に基づく予防策の実施と資金調達を拡大 する。
- 人道的な環境にある人を含め、多様なあらゆる女性と少女に対するジェンダーに基づく暴力のサバイバー のための、被害者中心の、包括的で質の高い、アクセス可能で手頃な価格のサービスの実施と、資金調達 を拡大する。
- 女性と少女に対するジェンダーに基づく暴力を撲滅するために活動している自主的な少女主導型および女 性の権利団体に対して、国や民間企業、財団、その他のドナーからの支援を強化し、説明責任を果たし、 質の高い柔軟な資金提供を行う。

経済的正義と権利

くビジョン>

- 2026 年までに、少女を含むあらゆる多 様な女性と少女に、男性と少年と同様 の経済的正義と権利が保証されるこ ٥ع
- システムや構造がジェンダーに対応し ており、資源やサービス、意思決定へ の公平で安全なアクセス/ジェンダー を変革する企業や取引への参加/暴

ECONOMIC JUSTICE AND RIGHTS **ACTION COALITION**







力やハラスメントのない差別的でない労働市場の促進/介護や家事労働を公平に分担し評価するケア経 済/COVID-19 の感染拡大などの経済的ショックへの耐性を確保すること。

説明責任は、ジェンダーに対応した経済の法則や政策、ジェンダー別のデータやジェンダー統計を通じて強 化される。多様な女性や少女の声が真に聞かれ、彼女たちのリーダーシップが現実のものとなること。

<具体的な行動>

- 2026 年までに、ジェンダーに対応した公的・私的な質の高いケア・サービス(保育・介護など)への投資、法 律や政策の改革、最大 8,000 万件の働きがいのあるケア労働の創出など、包括的な施策を実施する国を 増やし、無償のケア労働を認識、削減、再分配し、ケア労働者の労働権を保証しつつ、ケア労働者に報酬 を与え、代表をさせる。
- 2026 年までに、貧困に苦しむ働く女性の数を減らすために、法的・政策的環境を整え、フォーマルおよびイ ンフォーマルな経済領域におけるディーセント・ワークの拡大に女性を参加させる。
- 2026 年までに、女性が所有する土地やジェンダーに対応した金融商品やサービス、企業数の増加を通じて、 生産資源への女性のアクセスとコントロールを拡大する。
- 2026 年までに、質の高い公的な社会的保護のフロアとシステムを通じて、貧困に苦しむ女性と少女の数を 8.500 万人削減するために、ジェンダーに対応したマクロ経済的計画、予算改革、景気対策を立案し、実施 する。

身体の自律性および性と生殖に関する健康と権利(SRHR)

<ビジョン>

- あらゆる多様な女性と少女が、強制や暴 カ、差別から解放され、自らの性と生殖に 関する健康と権利(SRHR)を行使し、自ら の身体について自主的な決定を行うことが できるようになること。
- SRHR に関する情報や教育、サービスを自 由に入手・アクセスすることができ、かつ質 の高いものであること。少女や女性、フェミ ニストの組織やネットワーク、そしてその仲

BODILY **AUTONOMY AND** SEXUAL AND REPRODUCTIVE **HEALTH AND** RIGHTS **ACTION COALITION**







間たちが SRHR を推進するために強化されること。より多くの政府が、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの 一環としても、SRHR を推進し、保護し、投資すること。

アクション・コアリションを超えて、複数のステークホルダーとあらゆるレベルで協力しながら、ジェンダーや 社会規範を変革し、交差的、多文化的、人権に基づくアプローチを適用してジェンダー平等を推進し、SRHR の成果を向上させ、誰も取り残さないようにすること。

<u><具体的な</u>行動>

- 2026 年までに、5,000 万人以上の子ども、青少年、若者を対象とした、学校内外での包括的な性教育の実 施を増加すること。
- 2026 年までに、包括的な SRHR の枠組みにおいて、5,000 万人以上の少女と女性に対する避妊サービス の質とアクセスを向上させ、5,000 万人以上の思春期の少女と女性が安全で合法的な中絶にアクセスでき る地域で生活できるようにするため、制約のある政策や法的障壁の撤廃を促すこと。
- ジェンダー規範の変革と権利に関する知識の向上を通じて、2026 年までに 2 億 6,000 万人以上の多様な 少女、若者、女性が、自らの身体、性、生殖について自律的な決定を行えるようにすること。そして、少なく とも 20 の国において、身体的自律と SRHR を保護・促進するための法的・政策的変革を行うこと。
- 自主的なフェミニストおよび女性団体(女性主導の組織や先住民の組織を含む)、女性の人権活動家・平和 活動家に対する説明責任や参加、支援を強化し、身体的自律性と SRHR を促進し保護するために活動す る組織、ネットワーク、運動を強化する。

気候正義のためのフェミニスト的行動

くビジョン>

2026 年までに、本アクション・コアリション は、気候変動とジェンダー正義の問題の 相互関係を認識し、社会的・政治的な場 で、最前線の活動家を含む草の根・先住 民族コミュニティの声を保護・増幅するよう な、包括的で再生可能なグリーン経済へ の移行を開始すること。



- 女性と少女が、その多様性を活かして、あらゆるレベルの意思決定プロセスに公平かつ有意義に参加すること。これには、主要な気候政策手段を国の開発計画に合わせることや、人権を中心とした気候変動対応策を策定することも含まれる。
- 融資機関とドナーは、リスクを再認識し、女性団体を優先的なパートナーとし、ジェンダーに配慮した気候変動や生態系に基づくアプローチへの変革的な投資を支援するために、資本をシフトする責任を負うこと。
- 多様なあらゆる女性と少女が、気候変動対策のための資金や技術、知識に公平にアクセスし、土地の権利 と所有権を確保するなどして、管理と保護のための自然資源にアクセスし、コントロールすること。

く具体的な行動>

- 2026 年までに、官民を問わず、世界の気候変動対策資金の流れのうち、特に草の根や農村レベルでのジェンダーに配慮した気候変動対策に向けられ、投資される割合を増加させる。これには、二国間および多国間の気候変動対策資金のうち、ジェンダーに配慮したものの割合を 65%に引き上げることなどが含まれる。
- 2026年までに、包括的で循環型、再生可能なグリーン経済への移行に関連する環境ガバナンスやセクター において、意思決定や指導的立場にある女性や少女の割合を増やす。
- コミュニティベースの協同組合のモデルや、土地の権利と所有権の保障などを通じて、気候変動や災害リスクへの耐久性を高め、気候変動を緩和し、損失や損害に対処するために、数百万人以上の多様な女性と少女の能力を強化し、活用する。
- 2026 年までに、19 ヵ国で、ジェンダーと環境の統計の作成を可能にする環境を整備し、ジェンダーと環境の 統計の政策への利用が増加すること。

ジェンダー平等のための技術と革新

<u><ビジョン></u>

- 2026 年までに、多様なあらゆる女性と少女が、表現の自由や喜び、無限の可能性を持って、テクノロジーとイノベーションに安全かつ有意義にアクセスし、使用し、主導し、構築する機会が平等に与えられること。
- イノベーション・エコシステムを拡大し、デジタル技術に透明性と説明責任を持たせ、 包括的なデジタル経済を拡大するために、



大胆なジェンダー変革の行動を展開し、特に政府と企業が連帯して責任を負うことを求めること。

<具体的な行動>

- 2026 年までに、デジタル技術への有意義なアクセスと普遍的なデジタル・リテラシーを促進することにより、 世代間のジェンダーのデジタル断絶を半減させること。
- 2026年までに、フェミニスト的テクノロジーとイノベーションへの投資を50%増加させ、技術者としての女性の リーダーシップを支援し、女性と少女の最も差し迫ったニーズへの対応を強化すること。
- 2026 年までに、イノベーション・エコシステムを変革するための新しいネットワークや基準を構築することで、 テクノロジーやイノベーションの分野で働く女性の割合を 2 倍にすること。

• 2026 年までに、大多数の国とテック企業が、オンラインやハイテクによって助長されるジェンダーに基づく暴力や差別に対する政策や解決策を実施し、説明責任を果たすこと。

フェミニズム運動とリーダーシップ

くビジョン>

2026 年までに、トランスやインターセックス、 ノンバイナリーの人たち、先住民女性、若いフェミニストや他の歴史的に排除されてきた人 たちを含むフェミニストリーダーや運動、組織 が持続的であるよう支援を受け、攻撃の恐れ を抱かずに活動を継続でき、そして全ての人 のジェンダー平等、平和、人権を促進する。



<具体的な行動>

- 2026 年までに、トランスやインターセックス、ノンバイナリーの人たちが主導するものを含む、多様な女性およびフェミニスト主導の運動、組織、財団に対する、あらゆる分野からの資金の年間成長率を世界で2倍にすること。
- オンラインを含むあらゆる領域の市民空間を促進、拡大、保護し、トランスやインターセックス、ノンバイナリーの人たちを含む、女性やフェミニストの人権活動家や平和活動家が市民空間を守り、多様なあらゆるフェミニスト的行動、組織化、動員に対する障害をなくすための取り組みを支援すること。
- 2026 年までに、以下の手段を用いて、少女のリーダー、トランスやインターセックス、ノンバイナリーの人たちを含む女性やフェミニストのリーダーの有意義な参加、リーダーシップ、意思決定力を高めること。
 - (1) 民間企業や市民社会、国際機関、行政・立法を含む政治・政府機関など、公的・経済的な意思決定のあらゆる側面において、ジェンダー平等を推進する。
 - (2) フェミニストでジェンダーを変革し、インクルーシブな法律と政策を推進、拡大する。
- 少女と若いフェミニストのリーダー、およびその運動や組織を強化し、意思決定プロセスへの有意義な参加のための安全で包括的なスペースをつくるために、具体的かつ柔軟な資金、技術、その他のリソースを提供すること。

3.

プログラム一覧

3月29日(月)1日目							
メキシコ時間	内容						
7:00~7:45	開会式						
8:30~10:00	Women and Transformative Leadership for Generation Equality						
	(平等を目指す全ての世代のための女性と変革を起こすリーダーシップ)						
10:00~11:30	テーマ別セッション						
(19:00~20:30)	The Economy. The Crisis of Economic and Global Development Models and						
* さまざまなタイム	their Impact on Women and Girls, with a Focus on the COVID-19 Context.						
ゾーンの人が参加	(経済:コロナ禍における経済危機とグローバルな発展モデルおよび女性と						
できるように、同じ	少女に及ぼす影響)						
テーマのセッション	2. Gender-based Violence. The Crisis of Gender-based Violence Especially in						
が2度繰り返して実	the Context of COVID-19 - and the Need for Awareness, Prosecution and						
施されました。	Eradication.						
	(ジェンダーに基づく暴力:特にコロナ禍におけるジェンダーに基づく暴力の						
	危機、そして啓発、起訴、根絶の必要性)						
	3. Feminist Movements. The Challenges of Feminist Movements and Grassroots						
	Women's Organizations Including in the COVID-19 Context.						
	(フェミニズム運動:コロナ禍を含む、フェミニズム運動や草の根での女性運						
	動の課題)						
	4. Media. The Role of Media in Building a Feminist Agenda.						
	(メディア:フェミニストのアジェンダ構築におけるメディアの役割)						
11:30~13:00	テーマ別セッション						
(20:30~22:00)	5. Sexual and Reproductive Health and Rights (SRHR). Understanding						
	Challenges to Bodily Autonomy, Access, and Respect of SRHR, with a Focus						
	on the COVID-19 Context.						
	(性と生殖の健康と権力(SRHR): COVID-19 の状況を中心に、身体的自律						
	性、アクセス、SRHR の尊重に関する課題の理解)						
	6. Crisis in the Achievement of Gender Equality in Peace and Security and						
	Humanitarian Sector.						
	(平和・安全保障と人道的危機におけるジェンダー平等達成に向けた危機)						
	7. Climate. Feminism in the Context of the Environmental Crisis and the Climate						
	Emergency.						
	(気候:環境危機と気候非常事態の文脈におけるフェミニズム)						

	11. Institutional Mechanisms for the Advancement of Women.				
	(女性の進歩のための制度的メカニズム)				
10.00 14.00					
13:00~14:30	テーマ別セッション				
(22:00~23:30)	8. Technology and Innovation for Gender Equality. Challenges and Opportunities				
	Evolving from the COVID-19 Context.				
	(ジェンダー平等のための技術と革新:コロナ禍に生まれた課題と機会)				
	9. Generation Equality: Girls' and Adolescents' Participation in Building a Mo				
	Equal World.				
	(平等を目指すすべての世代:より平等な世界の構築に向けた少女と若者				
	の参加)				
	10. The Crisis of the Human Rights of Women and Girls, Including in the COVID-				
	19 Context, and the Issues of Migration, Social and Racial Justice.				
	(COVID-19 の文脈を含めた女性と少女の人権危機、そして移民、社会・人				
	種的正義の問題)				
	3月30日(火)2日目				
8:00~10:00	Action Coalition のセッション				
(19:00~21:00)	ジェンダーに基づく暴力				
	経済的正義と権利				
	ジェンダー平等のための技術と革新				
10:00~12:00	Action Coalition のセッション				
(21:00~23:00)	女性・平和・安全保障と人道的行動に関する協定				
	気候正義のためのフェミニスト的行動				
	身体の自律性および性と生殖に関する健康と権利(SRHR)				
	フェミニズム運動とリーダーシップ				
12:00~13:30	全体会: Cities and territories in front of an inclusive recovery: a 25-year Beijing review.				
	(包括的復興に向けた都市と地域:北京+25レビュー)				
	3月31日(水)3日目				
7:30~8:30	Side Event led by the Government of Mexico: Launch of the Group of Friends for				
	Gender Equality				
	(メキシコ政府主催サイドイベント:ジェンダー平等のためのフレンズ・グループ立ち上				
	(ず)				
	*この呼びかけに、日本政府を含む 20 ヵ国が参加を表明しました。				
	詳細: https://www.mofa.go.jp/mofaj/fp/hr_ha/page6_000543.html				
8:30~9:15	The Work Ahead: Action Coalitions and the Compact on the Women, Peace and Security				
	and Humanitarian Action.				
	 (今後の作業:アクション・コアリションと、女性・平和・安全保障と人道的行動に関する				

	協定					
9:15 ~ 10:15	Imagining 2026 Youth panel discussion					
	(2026 年を想像して、ユースのパネルディスカッション)					
10:15~10:37	文化的活動					
10:37~11:07	Civil Society Pathway(市民社会の道筋)					
11:07~11:30	文化的活動					
11:30~12:30	a. Mobilizing Commitments(動員に向けたコミットメント)					
	b. Closing remarks- Passing the Torch (閉会の挨拶- トーチを渡して)					
12:30~13:00	音楽パフォーマンス					

4

参加報告

*以下は、派遣者が参加したセッションの報告になります。

3月29日(月)1日目

<7:00~7:45 開会式>

フォーラムは、3 月 29 日日本時間 22:00~22:45 にオープニングセレモニーをもって開幕しました!

メキシコの会場では、対面とビデオメッセージでメキシコ大統領、メキシコ内務大臣、国連事務総長、UN Women 事務局長、次の GEF 開催国フランスのマクロン大統領らが代わるがわるスピーチを行い、北京会議から 25 年、この GEF で世界中の人々が連帯して障害を乗り越え、ジェンダー平等の動きを一層前に進めていこうとアピールしていました。



今回のメキシコフォーラムでの協議を次に開催されるパリでの GEF へ、人々がどのように繋げていくか、特に若者の関わりに期待したいところです。

<8:30~10:00 Women and Transformative Leadership for Generation Equality(平等を目指す全ての世代のための女性と変革を起こすリーダーシップ)>

フィンランドのサンナ・マリン首相のオープニング メッセージから始まり、デンマークのメアリー皇 太子妃、セネガル共和国のアミナタ・トゥーレ元 首相、持続可能社会を実現する活動家イネス・ ヤバルさん、ニュージーランドのクラーク元首



相、スペインのカルメン・カルボ副大統領、オルガ・コルデロメキシコ内務大臣、ベアトリス・アルジモン ウルグ アイ副大統領、1992 年ノーベル平和賞受賞者のリゴベルタ・メンシュ等短い時間の中で世界の女性リーダー たちが、女性の貧困、暴力、アンコンシャス・バイアス、教育について熱く語りました。

性差別や性暴力、女性リーダーの不足、COVID19 により女性がますます貧困に追い込まれ、DV が増加していることなど、共通の問題について各国の現状報告と解決に向けての意見交換が行われました。いかに女性が性的に虐げられているかを感じる議論でした。

「女性たちが十分に社会参加できないのは女性の過ちではなく社会の過ちです」、「GEF はアクションの場です。語り合い、ステートメントを作るだけでなく、女性たちの希望をアクションに移し運動を加速しましょう。北京会議からの 25 年はゆっくりとした歩みだった。今やこの運動を加速化し、社会を根底から変革する時です」という言葉にワクワクしました。

<19:00~20:30 The Economy. The Crisis of Economic and Global Development Models and their Impact on Women and Girls, with a Focus on the COVID-19 Context.(経済:コロナ禍における経済危機とグローバ

ルな発展モデルおよび女性と少女に及ぼす影響)>

コロナ禍では、世界中で女性や少女が経済的な苦境 に陥っています。この状況から脱却して、よりよい復 興を達成するためには、これまでの社会経済の構造 的な転換が必要という共通認識から、経済学者、

女性、先住民政策の専門家、国連機関の職員等7人 が具体的な例を挙げて協議しました。競争や効率を 最大の価値とする現在の新自由主義経済から、女性



の無償労働の価値を GDP に組み込むケアエコノミー、国や地域の持続可能性に重きを置くグリーンエコノミー、税制の再構築、テクノロジーとジェンダー平等の両方を加速する政策など、フェミニスト視点で各専門家から発言がありました。個々の社会課題にサイロ化した狭い方法論で取り組むのではなく、行き詰まりをみせる資本主義経済をどうつくり変えるか、という大きな視点を与えられたのは非常に刺激的でした。

結論として、経済を地球規模で考えること、最低賃金保障やベーシックインカムのような政治的正義を進めること、ジェンダー平等への投資をすることが、社会をより進歩させるという一致点を見い出すことができたセッションでした。

<20:30~22:00 Institutional Mechanisms for the Advancement of Women(女性の進歩のための制度的メカニズム)>

北京行動綱領ではジェンダー平等を進めるために、 各国に女性の視点に立った法制度や公共政策の立 案やジェンダー統計の充実など、制度的機関を設置 するよう義務付けています。

このセッションでは日本を含むパラグアイ、スウェーデン、コスタリカ、フィジー、フィリピン、ニュージーランド



の関係閣僚や政府高官が行動綱領に沿って設立した自国のナショナルマシナリーについて説明し、コロナ禍で困難を抱える女性や少女にどのような支援を行っているかを紹介しました。日本では、全国の自治体に女性センターを設置しており、また女性を支える NPO の活動に国の財政的支援を行っている、と内閣府男女共同参画局長が語りました。興味深い事例として、フィリピンには「Magna Carta of Women」という法律があり、CEDAW(国連女性差別撤廃条約)の理念を国内で実現する法制度的な根拠となっているそうです。またスウェーデンは多くの閣僚や国会議員に率いられる国ですが、これは長年ジェンダー平等に必要な政策を着実に進めてきた成果であるとのことでした。国のジェンダー平等の目標と優先順位を明確に定め、その下にサブゴールを設定し、毎年 2 回ジェンダー統計をとり、政策の具体的な成果がどのように現れてきたか分析しています。

スウェーデンのような継続的な取り組みを可能にするためには、国の制度的メカニズムを強化することが重要と痛感しました。さらに、ジェンダー統計の重要性がここでも語られましたが、ジェンダーに関するデータをどのように分析し、理解するかが政策決定に重要な影響を与えるということが強調されていました。世界経済フォーラムが発表した 2021 年のジェンダーギャップ指数で、156 か国中スウェーデンは 5 位、フィリピンは 17 位、日本は 120 位。国の制度設計の重要性を認識したセッションでした。

3月30日(火)2日目

<7:00~8:30 ネットワーキングセッション:フェミニズム運動とリーダーシップ>

*本会議と同時並行で多くのパラレルイベントが開催されました。

2 日目は、今後 5 年間のジェンダー平等に向けた具体的な行動の道筋 Action Coalitions に関する協議がなされました。その 6 つのテーマの"6. Feminist movements and leadership"に関するネットワーキングセッションでファシリテーションを担当しました。



各 Action Coalitions のビジョンや具体的な行動の下案は既に公開されており、まずその説明がありました。 セッションで使用された PPT は以下のリンクよりご覧いただけます。

https://forum.generationequality.org/sites/default/files/2021-03/FML_FINAL_VISUAL_EN.pdf

ビジョンは「2026 年までに、トランスやインターセックス、ノンバイナリーの人たち、先住民女性、若いフェミニストや他の歴史的に排除されてきた人たちを含むフェミニストリーダーや運動、組織が持続的であるよう支援を受け、攻撃の恐れを抱かずに活動を継続でき、そして全ての人のジェンダー平等、平和、人権を促進する」こと。具体的な行動としては、①フェミニスト活動家や組織、基金、運動を資金的に援助し支えること、②フェミニストアクションや組織化、動員のための市民スペースの促進・拡大・保護、③全ての多様な女性、少女、ノンバイナリーの人の意義のある参加やリーダーシップ、意思決定の力を促進・拡大すること、④少女と若いフェミニストリーダーや運動、組織を強めること、この4点が紹介されました。

社会正義を目指す団体で活動する者として、また一人の若いフェミニストとして、日々のアクティビズムに直結する具体的な行動が合意されたことに希望を感じました。参加者からの発言も、国レベルだけではなくより小規模の自治体を巻き込んでいくことの重要性や、行動の達成を図る指標やインクルーシブなデータ収集に関する課題、アカウンタビリティや、ユースのリーダーシップのあり方に関する提言"Young Feminist Manifesto"

をどう行動に移していくのか等、フェミニスト運動にコミットしている人だからこその懸念や発言が共有されました。

<ネットワーキングセッション:経済的正義と権利>

フォーラム 2 日目。たくさんの分科会がオンライン上の 部屋毎に行われており、どのセッションも興味を惹くもの ばかりでしたが、Action Coalitions の 2 つ目、Economic Justice and Rights (女性の経済的正義と権利)の意見 交換のセッションに参加しました。

女性の無償労働の問題は世界中で長い間問題視され



ながらも、未だに解決出来ていないばかりか悪化しています。日本の現状とも重なることとしては、育児、介護、家事労働、ボランティアワーカーへの経済的依存度の高さが提起され、若い 10 代の一般参加者の方々からも活発な意見が出されました。また、各国の GDP に女性の無償労働は含まれておらず、性差による社会的、経済的な格差が解決されるためには、現在の無償労働に対する政府による具体的な支援が不可欠であり、そのためにも草の根で活動を続ける活動団体同士が国境を超えて協力し合う Action Coalitions が必要だと実感しました。

目の前で各国の若い活動家達がお互いの情報を交換し、ネットワーク作りをする姿を生で見ながら、今後の可能性と希望で胸が熱くなりました。

<21:00~23:00 気候正義のためのフェミニスト的行動>

このセッションでは、気候変動対策とジェンダーの問題の関連性や、草の根での運動、先住民の方々の声を守り、また取り上げることを目的に開催されました。若者や市民社会、民間企業、フィランソロピー、政府や国際機関に所属するパネリストがそれぞれの考えを共有してくれました。

草の根での運動や、意思決定の過程にユースを増やすこと、対策を講じるためのデータ収集、資金や技術・知識に女性が公平にアクセスできるようにサポートをすることの重要性など、それぞれパネリストの立場からの意見を伺いました。また、投票機能を用いて Finance・Leadership・Resilience・Data の 4 つのうち特に迅速に取り組みが必要だと思う分野を参加者に聞いた結果、Leadership と答えた人が一番多いことがわかりました。多角的な視点から学べ、自分の立場からできるアクションを考えることができました。

<芸術作品の展示ブース>





GEF のウェブサイトにログインすると、デパートのロビーのような、カラフルかつ豊富なコンテンツが目に飛び込んできます。ページ上に複数の部屋があり、クリックすると各セッションの Zoom に進める仕様で、実際に会場に赴いている気分になりました。

任意の時間に試聴できる動画はジェンダーに関するものだけではなく、メキシコの建築物や生活を垣間見られ、伝統音楽にも触れることができました。ジェンダー平等を進めるためのフォーラムですが、開催地のメキシコ文化に触れることができ、お祭りに参加した気分になりました。動画の他にも、参加者同士でテーマ別に会話をするためのチャットスペースや、あらゆる視点からジェンダーの問題を考え行動を促す記事、芸術作品の展示会の鑑賞を楽しめました。"If our body were walls"(もし私たちの身体が壁だったら)はメキシコでのデモを紹介する作品で、声を上げる方法や考えを訴える方法は言葉だけではないのだと実感しました。

GEF は、主に講演会や動画の聴講を通して意見を吸収する機会でしたが、「あなたにできる行動は?」と訴えかけられているような内容が多く、自分の立場からの活動を考える機会にもなりました。